



制作時系列や制作場所に応じて等間隔横一列に展示





N-23.22 (bloom VII)

300mm×200mm フレスコ 2022年



未完成の連続性を持つ絵画をドローイングとして捉え、絵画としての未完を余白の在り方として思索、制作した。それは描くことが見ることへの葛藤でもあるように、見えていないものを見ないと見えているようには描けない、見ることへの残留表現でもある。余白の空洞性が作画的にならないように制作時間の制限があるフレスコの素材・技法を用いた。フレスコは漆喰が乾かないうちに描かなければ顔料が定着しない。一日描きのフレスコ・ジョルナータの技法によって連日長期間の一日1枚の制作を続行する事で無作為な偶発性を含み、フレスコによる未完の連続性であるドローイングを実現した。見る対象はいつも抱かれている瓜生山の自然であり、スケッチも含め野外等の現場での制作を心がけた。一日で描けるサイズを定め(300mm×200mm)全作品統一で制作し、81点を展示した。

写真撮影・高橋保世

個展「空洞の周辺」ギャラリーCreate 洛
(1/31-2/5, 2023)

